

働き方を変革する「RPA」

～企業における活用法とその導入効果～

【主催】時事通信社 【協賛】NTT東日本 【後援】北海道新聞社

業務効率化に向けたRPAは、事務作業におけるさまざまなパソコン操作を自動化することで生産性が向上するため、多くの企業に広がりつつあります。3月20日センチュリーロイヤルホテル(札幌市中央区)で行われた本セミナーでは、RPAの展望をはじめ、すでに導入している企業における導入効果などを紹介。展示デモンストレーションでは熱心に見入る参加者が多く、関心の高さが伺えました。

RPA Robotic Process Automation(ロボティック・プロセス・オートメーション)の略。ソフトウェアとしてパソコンなどに導入されたロボットにデスクワーク業務を代行させる取り組み。

企画制作 / 北海道新聞社営業局

基調講演

地方の未来と先端技術活用



総務省 情報流通行政局
地方情報化推進室長
松田 昇剛 氏

少子高齢化の深刻化により、今後日本の労働力人口が大幅に減少するといわれています。2040年ころには総人口が毎年100万人近く減少し、自治体の税収や行政需要に大きな影響を与え

ると予想されています。持続可能な地域社会の実現に向けて、地域コミュニティの再生・維持、地域の安心・安全に取り組むための一つとして、「世界最先端デジタル国家創造宣言官民データ活用推進基本計画」が昨年閣議決定され、情報通信技術のさらなる活用と基盤整備を推進。RPAなどを活用したデジタル自

治体行政の推進も含まれており、RPAによる業務プロセスの自動化や省力化、窓口業務の改革など、都道府県で約30%、指定都市で約45%、その他の市区町村で約3%導入されています。現状としては、音声認識、チャットボットによる応答、画像認識、マッチングなどで活用されています。4月15日までRPA導入推進事業に係る地方公共団体への補助金の公募をしていますので、総務省までお問い合わせください。

概論

RPA導入でサービスの質向上
デジタルレイバー活用の秘訣



一般社団法人
日本RPA協会 理事
池邊 竜一 氏

まずはRPA対象業務の選定の仕方をお伝えします。WEBクロッキングによる情報収集、社外システムとのシステム間連携をはじめ、報告書向けの数値集計や不整合チェックなどの棄却域設定、メール送信など社内アプ

ケーション操作などに向いています。いわゆるデスクワークのノンコア業務に該当します。RPAツールにはデスクトップ型とサーバー型の2タイプがあります。デスクトップ型は、デジタルレイバー(事務作業を自動的に行うコンピュータプログラム。仮想的労働者とも言う)が、それぞれのパソコン内で作業をします。一方、サーバー型は、デジタルレイ

バーがサーバー内で働き、業務を横断的に管理して、大量のデータやルールを一括管理できます。行政においてはRPAで業務をスリム化して市民に寄り添うことができます。人が差別化につながります。人の労働時間という制約を超えるデジタルレイバーを労働力として迎えられたいと捉えることと受け入れやすいのではないでしょう。

※WEBクロッキング WEB上にある情報をクローラーというロボットを使ってデータを収集すること

取組紹介

『AIよみとく』で効率化 NTT東日本



会場にはNTT東日本の展示ブースが設けられ、手書き書類や帳票の文字読み取りを行い、データ化するAI技

術を使ったOCR(光学文字認識)サービス「AIよみとく」のデモンストレーションが行われました。手書き文字からテキストデータを正確に読み取っていく様子に、多くの参加者から驚きの声がかかるほど。「AIよみとく」は、スキャナなどで書類帳票をアップロード、AIを使ったデータ化、読み取り結果をファイル出力という簡単な3ステップで利用できます。2万文字を超える実証実験の結果から読取精度は96.71%と識字率が高く、マウスの操作だけで簡単に読取の設定ができます。

さらに社内システムなどと連携できるRPAと組み合わせることで、稼働時間を半減することも期待できます。NTT東日本のホームページでは、「AIよみとく」の操作を体感できる動画を公開しているほか、実際にデモ体験することも可能。また、「2カ月トライアル」で導入効果を実感することもできます。商品の詳細問い合わせは「NTT東日本ホームページ」<https://business.ntt-east.co.jp/service/rpa/about/>「フリーダイヤル」平日10～17時0120-1009-1070

事例紹介



ほくてん情報テクノロジー株式会社
経営企画部 副部長
唯野 隆一 氏

RPAを活用するには、まずは業務を洗い出し、パソコン作業の分析や効果の精査をしてから、ロボットを開発することで業務を自動化。随時効果測定と問題点を洗い出してロボットの完成度を高められます。それにより単純作業はロボットに任せ、人は経験が伴う複雑な判断などを担当することで、業務改善、生産性向上、働き方改革に寄与できると考えています。すでに、ほくてんグループ各社において、申請書データ登録、出勤簿代理登録などRPAを運用。今後はRPA、AI、IoTを連携して、データ連携共通プラットフォームの構築、整備が必要になるでしょう。

当社は、オフィス環境に関わる必要書類のデジタル化で最適な提案をしています。2007年からオフィス通販の事業を展開。売り上げが拡大する中で、見積書の作成、代理発注など、事務作業は力仕事になつていきました。そこで昨年からは月末個別請求書発行業務にRPAを導入。労働時間は短縮し、事務作業を1カ所に集約でき、作業精度も向上し、作業負荷も軽減しました。今後はより付加価値の高い仕事へのシフトを進めます。RPAを導入して、業務効率化は作業を自動化するのではなく、前例踏襲の考え方を排除して業務の枷卸を行い、プロセスの見直しが大切だと感じました。



株式会社近藤商会
常務取締役
中村 昭 氏

取材現場から



時事通信社
解説委員
堀 義男 氏

すでに多くの企業でRPAを導入しており、NTTグループでは1.2万ロボットを500業務プロセスで、活用しています。ある大学では支払い手続き確定作業に導入。不動産投資会社では、火災保険の登録システム、クラウドサービスを活用したポータルサイトへの広告の自動掲載にRPAを導入して業務の効率化を推進。福島県郡山市では保育施設入所に関して、手書きの申請書などをOCRで読み取ったデータをRPAがシステムに自動入力し、AIが入所先を選定するRPA・AI連携システムのの実証実験を進めています。東京都港区は、区のコミュニティバス利用の申請処理に関して、AI・OCRとRPAの連携処理を採用しています。